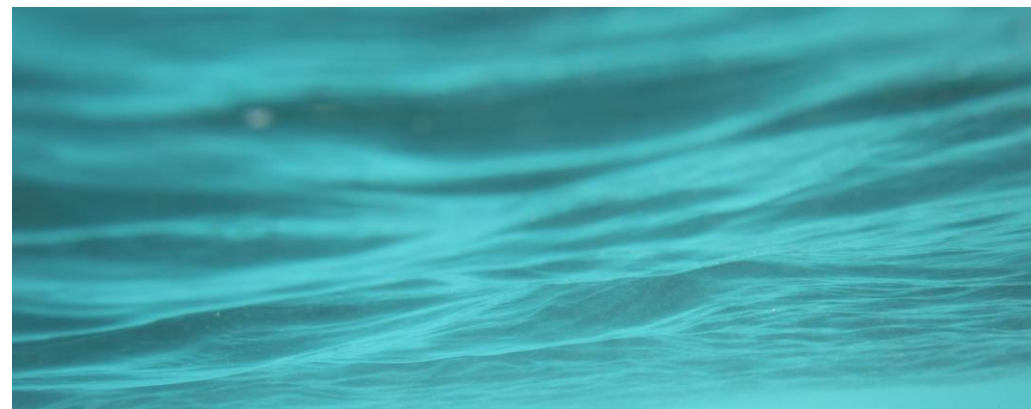


# 染める

令和7年度 学芸の森保育園  
とうきょうすくわく  
プロジェクト



どもの「すくすく×わくわく」をおうえん

## <テーマ設定>

春の散歩中に見つけた桑の実を「お散歩バック」に入れたところ、桑の実がつぶれて子どもたちの手や服に色が付いたことに気が付き、関心をもった。そこで、「色がつく」「染まる」をテーマに子どもたちの活動を展開していく計画を立てた。

- ◆ 令和7年度 幼児クラス（主に5歳児クラス）では、生活の中の様々な場面で、「染める」ことに子どもたち自身が気付き関心をもてるように、活動を展開しました。様々な環境と多様な遊びの中で、染まっていくことを楽しむ姿と疑問・実践などを通し観察・記録することで、幼児クラスならではの気付きや発見がありました。

幼児クラス  
「染める」計画

---

4、5月...桑の実ジュース

---

6、7月...色水遊び

---

8月...滲み絵

---

9月...STEAM活動「染み込む」

---

10月...Tシャツ染め【染料】

---

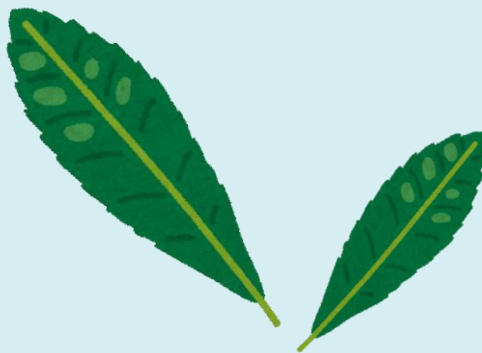
11、12月...草木染め【枇杷の葉】



### 桑の実ジュース

プレイパークの桑の木が折れているのを、管理のお兄さんが切ってくれたことがきっかけ、実を摘んだ子どもたち。手に色が付く…どうしよう？と考え、袋に入れることに。あれ？揉んだら色が出る？水を入れてみよう！と発見の連続から生まれた遊びです！

2025.05.19\_2025.05.2



子どもたちの気づきをきっかけに染める活動を発展させながら意欲的に取り組みました♪  
毎週配信されるドキュメンテーションにて、保護者の方々にも共有しました。



①植物園に行って枇杷の葉を調達！！ みんなの頑張りでなんと2キロを超えました。

誰かが木を押さえて、誰かが切る、落ちた葉を集める。ビニールを広げてあげる子、自然と役割を分担し、交換していました。

②採取した葉を洗浄して乾かす。何百枚洗ったのか…

これ放めるやつと置き、色や匂い、感触にも気がつく子どもたち。

③実は1番大変な作業。黙々と刻みます。細かければ細かいほど色が出るそう！

ふむふむとツルツル、感触の違いが表と裏でありました。

④布を豆乳に浸し、染液が布に定着しやすくします。

⑤布の重さの5倍の重さの葉っぱ200gを計量し、鍋へ。

⑥先生が染液を煮出します。見にくくてもうちは、くさい、茶色だ〜と気がつく事がいっぱい！

⑦絞る

200グラム程度のくさい？少ないの？葉っぱを定量的に、減らすのが数字や量さに注目しました♪

8回目の染色に経験済みの作業はお手のもの！今回は材料を増やし、柄を予想しながら作りました。

ハサミで刻んだ子どもたち、手が震れる、服作るの大変かもね…とつよきが…

春が始まった、桑の実ジュースの時には手が染まり、色水道びでは手やお洋服が染まり、様々な場面で染まる、染み込むことを経験した子どもたち。昨年度のさくら組に慣れて、今年度も挑戦しました。

待ち時間の色予想。どんな葉になるかな？濃すぎると黒くなるかも…と心配もあつた、結果はいかん？

さあ、ドキドキの染液に投入！！ 「え！？濃いかも」「黒くなりそう…」「染まるかな…」とドキドキワクワクで待っています。割り箸で優しく洗います…。

10分に1回かき混ぜて計40分待ちます

染液を落とす為に揉み洗い…

絞って…一旦「はいチーズ」

絞っていたところを外してみると…？？どんな模様になるかな？

材料がたくさん！こんなに使いました。

2025.10.16

①下処理した豆乳を軽く流し布を湿らせる。

②葉染液(今回は灰汁)の中よく揉む

③葉染液を流し、よく絞る

④染液の中でよく揉む

⑤時間を置く

まだかな？まだかな？と見にくく子どもたち。外から帰ってきて、お昼寝前、起きた後にもチェックを欠かせません。わくわくする一方で、茶色かな…濃くなりすぎて黒かも…と心配もありました。

⑥絞りを解いていく

わあ！ピンク色！でも濃いピンクだね！と色の感動の次には、遊戯できた！お花だ！お花だ！と柄の違いに大盛り上がり！お友だちと褒め合いです。

⑦染液を洗い流す

⑧紫外線に当てて、発色をよくする

今日は特別講師、青山馨先生をお迎えして、枇杷の葉の草木染めを行いました！プロ…と知った子どもたちは質問が止まりませんでした！何回染めたらプロになれるの？変な色にならないの？紅色はできるの？ハートの形はできるの？などなどよく考えていたさくらさんです。

挿入している時間はクリスマスソングを歌いながら楽しみました♪

# 振り返り

春の散歩で意図しないタイミングや出来事をきっかけに、今回の活動のヒントが得られた。異年齢での関わりの助け合いからも遊びや興味が生まれていた。子どもたちは自分たちの行事ではない時にも異年齢ならではの特色としてよく見ている事、覚えている事が分かった。染めに関しては、5歳児に限定したため子どもたちなりに考えた事を言葉にして質問する姿が多くあった。また、予想→調べる→根拠を見つける→実践→振り返りというようなPDCAサイクルに似たようなことを子どもたちが行っている事に気がつけた。保育者は具体的な指示はせず、興味の広がりそうな材料を子どもたちの目の届く場所に用意する事で子どもたちの興味がより広がったように思う。その気づきに寄り添い一緒に探求した事でより子どもたち目線の楽しさを感じられた。

大人が答えを伝えることは簡単で知識も増えるが、子どもたちがワクワクしながら考え、気がつき、やってみるという経験や知識は、この時期ならではのものがあるように感じるため、そういった機会を奪わないような声掛けが意識できると良いなと気がつけた。